

やいた市民会議の結果報告について

H25. 8. 20

少子高齢・人口減少社会の到来、市民ニーズの多様化等、市を取り巻く環境の変化などによる地域の問題・課題等への対応を図るために、広く市民の声を聞く機会を充実し、その意見を市の政策及び施策に生かすために、やいた市民会議を開催しました。

これまでに3回の会議を開催し、委員からいただいた意見等は、以下のとおりです。

◎子育て支援

☆母親の居場所づくり、室内公園（小中学校の空き教室や体育館の利用）

- ・祖父母の子育て勉強会
- ・PTAや育成会に加入しない家庭がある。

☆積極的な世代間交流の推進（子どもと交流することにより、親ともふれあえる）

☆相談窓口の体制改善（特に若い母親向け、発達障害・言語障害の子どもを持つ親などに分かりやすいシステムの提供が必要。様々な相談窓口があることをもっとアピールすべき。）

- ・周囲の友人等の話では、矢板市の子育て施策は好評（満足）である。今後の展開にも期待。

☆相談窓口の改善（事前予約制をやめる。すぐに解決できる体制づくり。）

☆「ことばの教室」の必要性（大田原市やさくら市では開設している。）

- ・ボランティアカードがいっぱいになったら、子ども会で景品や表彰をしたらどうか。

☆多年代交流や行政区の活動の際、市バスを使わせてもらいたい。

◎定住

- ・若者を定住させ、税金アップを図る。子どものふるさとづくり。
- ・若者の定住を図るため、期間限定で市営住宅や民間のアパートを借り上げ安く貸し出す。
- ・子育て支援エリアを作る（市内に子育て世代の新規居住者のみのエリアをつくり、そこから色々な地域との交流を行う。）
- ・空家の活用（震災の被災地住民を受け入れる。受入体制を整え、全国的にPRする。）
- ・空家と田畑未利用地の活用（田舎暮らし希望者へのPR。特に若者や外国人向け。体験型市民農園（クラインガルテン）など。）
- ・矢板駅から商工会までのエリア開発。高齢者など買い物等に不自由な方が、駅周辺に居住するためのコンパクトシティの研究。
- ・コンパクトシティの研究をするなら、片岡駅東などのまだ空き地の多い場所を対象にした方が良い。

◎産業・雇用

- ・企業誘致（他との差別化や企業にとってのメリットを考案）
- ・企業誘致（三重県がシャープ亀山工場を誘致した際、研究所から工場までの高速道路無料化を行った。思い切った政策が必要。）

☆何気ない光景に、矢板の良いところが沢山ある。それを発掘し、上手く活用する。

- ・矢板は交通の便が良いので、大型商業施設などがもっとあると良い。
- ・自然エネルギーを、矢板でも取り入れたらどうか。関心を持っている人は多い。

◎中心市街地活性化

- ・空き店舗や空き地の再利用（おためしショップ）
- ・JR矢板駅周辺に「屋台村」など人の集まる場所を設ける。

◎地域

- ・同じ地域の中で、若者世代（特に新規の居住者）と高齢世代がそれぞれ住みやすいような環境（行政区・班内の行事や慣習、地域性など）の改善が必要。
- ・自分の住んでいる地域の活動（役職・行事・清掃等）が多すぎる。
- ・若い世代は共働きが多い状況で、働く女性に優しいまちづくりをしてほしい。

☆積極的な世代間交流の推進（子どもと交流することにより、親ともふれあえる）

- ・市民体育祭の見直し（知らない人や参加したくない人が多い。地域では強制的に人集めをするところもある。内容を見直してはどうか。例えば、小中学校の運動会と地域の運動会を合同で実施するなど。）
- ・12月に社会福祉協議会で「福祉のつどい」を開催。テーマは「地域支え合い」で、ご近所問題などを取り上げ、講演会を実施する。
- ・ボランティア関係、日光市は進んでいる。矢板には何か足りない。
- ・子どもは地域みんなで育てていくという気持ちが必要。若い人たちが地域の行事に出られなくても、皆で見守りながらやっていくことが必要。
- ・婦人会も高齢化が進み、次の世代につなげていくには、どうしたらいいかが課題。
- ・行政区によって行事のとらえ方が違う。花いっぱい運動のような、行政区を競争させるような目的で、総合的な活動を評価する制度を作ったらどうか。

☆多年代交流や行政区の活動の際、市バスを使わせてもらいたい。

◎学校教育

- ・学校の補助的人材として、一般人のパート雇用
- ・小学校の学区、学校とPTA・育成会の問題

☆相談窓口の体制改善（特に若い母親向け、発達障害・言語障害の子どもを持つ親などに分かりやすいシステムの提供が必要。様々な相談窓口があることをもっとアピールすべき。）

- ・ふるさとに愛着を持てる教育（地域自慢：よさ発見発掘・矢板検定など）

☆相談窓口の改善（事前予約制をやめる。すぐに解決できる体制づくり。）

☆「ことばの教室」の必要性（大田原市やさくら市では開設している）

- ・少子化時代だからこそ、質の高い教育をしてほしい。学力だけでなく、その子どもなりの特徴を生かした教育を。
- ・西小や豊田小などの小規模学校は、教育の質は決して劣っていない。人数は少ないが、充実していることをどうPRするかを検討すべき。
- ・市内にある学校を上手く生かしていくことも一つの手段。人を沢山集め、まちを活性化することを、政策会議で一番に検討してほしい。

◎高齢者・福祉

- ・介護保険にかかる費用（約22億円）を減らすために、何らかの施策を考えられると良い。
- ・シニアクラブの加入率が低い。

- ・困ったときの福祉パンフレット「暮らしの相談」がうまくまとまっていない。できれば、防災マップなども掲載してあると良い。
- ・障がい者宅への訪問などのフォローがたりない。
- ・「いきいき体操」を、シニアクラブなどでどんどん活用すべき。介護予防のためにも、地域の教室の参加者を増やし、要支援の予備軍を減らす取り組みが必要。
- ・「いきいき体操教室」を実践している行政区が少ない。やり方を見直したり、参加者を増やすことが課題。
- ・献血ポイント制度のようなものを、シルバーの中でもできれば良い。
- ・一人ひとり障害だけでなく、それぞれ問題がある中、行政の個別のフォローが必要。

◎観光・自然

- ・道の駅と城の湯温泉センターとの連携（両施設間の流れをつくる）
- ・行ってみたい自然・景観を演出。ツツジや紅葉をPR。八方ヶ原の道路整備
- ☆何気ない光景に、矢板の良いところが沢山ある。それを発掘し、上手く活用する。
- ・自然をテーマとしたイベントの開催（野鳥観察会・高原山の写真絵画コンクール）
- ・イベントの集約（花火大会やともなまつりを同日に開催するなど、数を絞る。）
- ・観光PR（もっと分かりやすく。登山者やハイカー向けに情報発信の仕方を考える。）
- ・観光PR（市内コンビニなどに、観光ポスターやチラシを貼る。）
- ・長峰公園の活用（大規模なフリマ大会を定期的で開催、若者を集める。）
- ・矢板の名産・名物料理や土産物などの新規開拓。矢板の良い物をPR。
- ・景観美化のために、電柱の地中化。施設を新設する際も配慮すべき。
- ・とちまるショップで、矢板市のPRのやり方に問題あり。研究が必要。
- ・道の駅レストランの活用。営業時間外の利用方法として、おためしショップの開設、市内商店のPR、職場の懇親会などの場所として活用したらどうか。
- ・大田原の商店街では、道路沿いに唐辛子を植えている。昔から唐辛子が有名だったことが理由。矢板でも昔からあるものを取り入れて、道路の美化に活用したらどうか。
- ・お金をかけて古い街並みを新しくする人たちだけでなく、古い物を大切に残したい人も多い。古い商店街や街並みをどう残すかが課題。
- ・まちの活性化のため、街の真ん中に駐車場を作り、宣伝したら使う人がいるのでは。
- ・個人の土地で、手入れしていない空き地にごみが捨てられる。安全面に配慮して道路の法面だけは自治会で草刈りをしているが、環境美化の条例を作ったらどうか。

◎ごみ

- ・ごみの分別方法を、もっと細分化しても良い。

◎施設の活用

- ・シャープの社宅やサッカー場、グラウンドなどの施設の活用。
- ☆母親の居場所づくり、室内公園（小中学校の空き教室や体育館の利用）

◎行政

- ・市職員の意識改革（課内の情報共有・共通認識、スペシャリストを適材適所に配置、

市民対応をスムーズに行うシステムづくりの検討)

- ・市職員の人事配置（専門的知識を持った職員の育成と継続的な知識を配慮した人事異動）
- ・市道などについて相談後のフォローがない。
- ・放射能除染作業後のフォロー
- ・市職員の先進地視察研修、例えば北海道森町：行政は究極のサービス業など。
- ・指定管理者制度、団体への補助金について。
- ・窓口延長。開設日を増やす、午後8時までの延長、24時間窓口開設等、他でやっていない取り組みをやる、そこをPR。
- ・行政区などの地域活動に、市職員がもっと関わるべき。

◎公共施設

- ・市役所駐車場トイレが暗くてきたない。防犯上も良くないので、改修か建て替えを。
- ・市役所の駐車場、1台ごとのスペースをもう少し広くしてほしい。
- ・長峰公園の街灯が少ない。夜ランニングする人のため、あと2～3機増設してほしい。大田原市の美原公園を参考に検討。

◎議会

- ・議員報酬が高い。福島県矢祭町のような議員日当制の検討。

◎その他

- ・人口が増加することにより、メリットもあるがデメリット（治安の悪化等）もある。失うものが出てくる可能性もある。
- ・市民アンケートの実施（20才以上の全市民対象に無記名、封書。調査期間を長めにとり、様々な意見収集を行う。）
- ・市民アンケート（回収後の結果についても、市民会議で検討する。市民目線で解決策がみつかるかも。）
- ・市民会議の開催方法。テーマごとの話し合い。各団体等からの意見収集（全体会）やワークショップ（分科会）など、やり方を検討してはどうか。

☆複数の分野にまたがる項目（再掲）